

南無阿弥陀仏は
私のいのち

平成 25 年
12 月号

NO.
431

えこお

12

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



年の瀬

瀬とは「川の浅いところ、川の流れの速いところ、急流」という意味だそうだ。年の瀬とは、年末のたまった支払いを行う困難さを、昔の人が川の瀬に例えて表した言葉なのである。たまった支払いをすると食事が無くなり、暖をとる薪代が無くなる。そうすると死んでしまうという、年末の危機迫った状況を表現しているそうである。今日では年末だからといって危機迫る状況を、それほど身を感じることは少ないが、単純に年末を表す言葉として使われている。

昔の人は生きることに関心があったが、物が豊かになった今は、生きることがどこか当たり前になっている。そこに危機感を感じないかといえ、そうではない。様々な日常の変化に流されて生きている中で、このままあつという間に死んでいくのかという、漠然とした不安を抱えているのではないだろうか。その不安を何となくごまかして生きているのである。

今年一年を振り返ると、国内外を問わず自然災害が多く発生し、大勢の犠牲者を出した。また大震災の傷もなかなか癒えない。そのことを思い出すと生きることは当たり前ではないのである。生と死は裏表であると教えられるが、そう気づくと何となくでは生きていられない。

平成26年 西徳寺のあゆみ

(予定を変更する場合があります)



1月

- 元旦 (水) 修正会
- 11日 (土) 合唱団エコー練習
- 12日 (日) 婦人会新年会
- 18日 (土) 定例聞法会・合唱団エコー練習
- 19日 (日) 評議員会新年会
- 22日 (水) 総代会
- 25日 (土) 同行会新年会
- 28日 (火) 仏教青年会

2月

- 1日 (土) 合唱団エコー練習
- 9日 (日) 城東ブロック会聞法会
- 12日 (水) 婦人会聞法会
- 15日 (土) 定例聞法会・合唱団エコー練習
- 22日 (土) 同行会
- 23日 (日) 城南ブロック会聞法会
- 25日 (火) 仏教青年会座談会

3月

- 1日 (土) 評議員会定例役員会・合唱団エコー練習
- 8日 (土) 合唱団エコー練習・同行会
- 9日 (日) 城北ブロック会聞法会
- 11日 (火) 仏教青年会レクリエーション
- 12日 (水) 婦人会聞法会
- 15日 (土) 定例聞法会・合唱団エコー練習
- 18日 (火) ～24日 (月) 春季彼岸会
- 22日 (土) 聖徳太子奉讃会・本山特派布教・春季永代経法要
- 29日 (土) 同行会修習式
- 30日 (日) 中央ブロック会聞法会

4月

- 12日 (土) 同行会
- 16日 (水) 婦人会総会
- 19日 (土) 定例聞法会
- 22日 (火) 仏教青年会総会
- 26日 (土) 同行会

5月

- 10日 (土) 同行会
- 17日 (土) 定例聞法会
- 18日 (日) 城南ブロック会総会
- 21日 (水) 婦人会聞法会
- 24日 (土) 同行会
- 25日 (日) 城西ブロック会総会
- 27日 (火) 仏教青年会
- 31日 (土)・6月1日 (日) 仏教青年会研修旅行

6月

- 8日 (日) 城東ブロック会総会聞法会
- 14日 (土) 出かけていく聞法会 30周年記念大会
- 18日 (水) 婦人会聞法会
- 21日 (土) 定例聞法会
- 22日 (日) 評議員会総会
- 28日 (土) 同行会
- 29日 (日) 城北ブロック会総会

7月

- 5日 (土) 同行会
- 13日 (日) ～16日 (水) 孟蘭盆会
(10日よりお盆のお参りに伺います)
- 23日 (水) 婦人会聞法会
- 29日 (火) 仏教青年会夏季ミーティング

8月

- 13日 (水) ～16日 (土) 孟蘭盆会
- 24日 (日) 青年会主催バーベキュー大会

9月

- 6日 (土) 定例聞法会・評議員会定例役員会
- 9日 (火) 仏教青年会
- 13日 (土) 同行会
- 17日 (水) 婦人会聞法会
- 20日 (土) ～26日 (金) 秋季彼岸会
- 22日 (月) 秋季永代経法要
- 27日 (土) 同行会

10月

- 11日 (土) 同行会
- 12日 (日) 中央ブロック会総会
- 15日 (水) 婦人会聞法会
- 18日 (土) 定例聞法会
- 19日 (日) 城東ブロック会聞法会
- 25日 (土) 同行会
- 26日 (日) 城南ブロック会聞法会
- 28日 (火) 仏教青年会座談会

11月

- 1日 (土)・2日 (日) 西徳寺報恩講
- 5日 (水)・6日 (木) 婦人会一泊旅行
- 8日 (土) 同行会
- 9日 (日) 城西ブロック会聞法会
- 15日 (土) 定例聞法会
- 16日 (日) 城北ブロック会聞法会
- 18日 (火) 仏教青年会報恩講
- 22日 (土) 同行会

12月

- 13日 (土) 同行会
- 17日 (水) 婦人会聞法会
- 20日 (土) 定例聞法会・評議員会定例役員会
- 31日 (水) 歳暮法要

日誌

- 10月19日 定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習
- 10月20日 城東ブロック会聞法会(小岩区民館 参加者16名)
- 10月22日 東京教区研修会(川崎・長安寺)
仏教青年会座談会
- 10月26日 混声合唱団「エコー」練習
同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 高橋 淳
- 10月27日 城南ブロック会聞法会
(三茶しゃれなあど 参加者19名)
- 10月27日・28日 宗祖忌
- 10月28日 東京教区研修会(川崎・長安寺)
- 10月29日 仏具磨き(参加者7名)
- 11月2日・3日 報恩講 両日布教使 福井 憲雄師
- 11月6日 婦人会食事会(浅草田甫・草津亭)
- 11月7日・8日 中興忌
- 11月9日 混声合唱団「エコー」練習
同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 蓮井 邦宗
- 11月10日 城西ブロック会聞法会(中野商工会館 参加者9名)
混声合唱団「エコー」台東区合唱祭出演
- 11月13日 責任役員会・総代会
- 11月16日 定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習
- 11月17日 城北ブロック会聞法会(大塚・大和田 参加者25名)

龍樹菩薩のお念仏、易行の大道のお勧めについて、親鸞聖人は「生死の苦海ほとりなし ひさしくしずめるわれらをば 弥陀弘誓のふねのみぞのせてかならずわたしける（『高僧和讃』）」とただかれます。わたしたちは、わが心もわが身も思うままにならない生活しながら、他人まで思うままにしようとして「酒代をとやかくいうな化粧代」などと、他人の「非」のみをあげつらつて、苦を増殖しています。そして、たまたまいただいた偶然の「生」を当然と思い、必然する「死」を偶然と思う妄念妄想の生活は、底なしの「生死（まよい）の苦海」の連続です。だから、この生活に気づかせて脱皮させる道は、「弥陀弘誓のふねのみ」といわれます。それで、苦海に沈みきっているわれらを、平等に目覚めさせる本願のはたらきを船に譬えて、「のせてかならずわたしける」といわれます。

こうして、わたしの迷いに目覚めさせるのも、船に「のせ」るのも、覚りの岸に「わたす」のも、わたしのところへきている、阿弥陀仏の本願のはたらきです。それで聖人は、「憶念」とは、「憶念」というのは、信心



をえたるひとは、本願をつねにおもいはずるところのたえず、つねなるなり。（『唯信鈔文意』）」といわれます。つまり、「憶念」は、弥陀の本願につねに出遇う、一念一念のお

正信偈の話 (28) 松井憲一
 おくねんみだぶつほんがんに じねんそくじにゆうひつじょう ゆいのうじょうしようにらいごう おうほうだいひぐぜいおん
憶念弥陀仏本願、自然即時入必定。唯能常称如来号、応報大悲弘誓恩。
（弥陀仏の本願を憶念すれば、自然に即時の時、必定に入る。唯能く、常に如来の号を称して、大悲弘誓の恩を報ずべしといえり。）

育てたのです。しかも、その出遇いは、わたしの能力で出遇うのではなく、阿弥陀仏の願力によるのですから、「自然」なのです。それで、聖人は「自然」というのは、自はおのず

からという。行者のはからいにあらず。しからしむということばなり。然というは、しからしむということば、行者のはからいにあらず。如来のちかいてあるがゆえに。（『正像末和讃』）」といわれます。こうして龍樹大士が「人能く是の仏の無量功德を念ずれば、即時に必定に入る。（『教行信証』）」といわれたことを受けて、聖人は「自然に即時、必定に入る」といわれます。「即時」とは、時を隔てず「即位」ということです。この龍樹大士の文について、

聖人は「『即時入必定』というは、信ずればすなわちのとき必定にいととなり。必定にいとというは、まことに念ずれば、かならず正定聚のくらいにさだまるとなり。（『尊

号真像銘文』）」といわれて、本願のまことに出遇うから、かならず浄土に往生して仏に成ることが決まる身になると喜ばれます。こうして、正定聚、お念仏の友（聚）を賜りながら、苦海を引き受けて、歩んでいける身を頂きます。それで、龍樹大士の「即時に必定に入る。是の故に我常に念じてまつる。（『教行信証』）」という教えをいただかれて、聖人はさらに「唯能く、常に如来の号を称して、大悲弘誓の恩を報ずべしといえり」といわれます。つまり、「自然に即時の時、必定に入る」という一歩一歩は、阿弥陀仏の願いが、わたしに至りとどいて、南無阿弥陀仏と申すところをおこさしめたのです。だから、ただひたすら、阿弥陀仏のみ名を称えることのみが、そのまま、「大悲弘誓の恩を報ず」ることになるのです。「大悲弘誓の恩」は、自分の思うようにしていただいたご恩ではありませぬ。すべてを思うようにしたいという算盤勘定が、いつも破算になって、南無阿弥陀仏と頭がさがる、ご恩なのであります。

山門の言葉

人間肯定の心、 それが仏智疑惑

細川 巖



念仏者にとつて「仏智疑惑は一生の問題」といわれ、それは仏様のほたらき、智慧を疑うことだと教えられる。

普通に考えると、疑惑する心を晴らしてから信心は得るものである。そして継続的に努力精進し、ご利益に預かるといわれると非常に分かりやすい。一生懸命信じ、疑惑を晴らすのが一般的宗教だと思う。

だからこそ表記の言葉は素直には領けない。仏智疑惑とは「人間肯定の心」であり、また「人間的発想」とも細川氏は言われるのだ。

ところで、この人間的発想で思い浮かぶことがある。それは「努力すれば報われる」という言葉である。何度となくこの言葉に騙され、また騙してきたのかと思う。なぜなら努力したからといって希望が叶うとは限らないのが現実だからだ。

しかしこの思いが捨てきれない。だからこそ逆境を克服し成功した人の話を好むのだろう。逆に「報われたのは努力したからだ」というもの

人間的発想であり、報われた根拠を探してまでもこの理屈を大切にしようとするのが人間ということではないだろうか。

だからこそ「信心は阿弥陀如来の回向によって賜るもの」ということが一番領けない。自分の力で掴み取るという理屈がどうしても先に立つ。

しかし私達の「人間肯定」の在り方は自分自身を顧みない。顧みないままに未来を描き、その理想の未来のために今を費やす。自分の力を信じ、それを頼みにする在り方は、努力できる今を見失う在り方でもあると感ずる。これこそが仏智疑惑のすがたではないだろうか。

信心を賜るとはそのような自力心が打ち砕かれるということである。それは「人間肯定」「人間的発想」の私が明らかになることであろう。仏智疑惑は晴らすものではない、また無くせるものではない。むしろその心を明らかにし続けるのが聴聞、求道の歩みでなからうか。

(山崎 哲記)

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

滋賀県 仏性寺 様
江東区 佐久間 トヨ 様
台東区 森下 幸雄 様

報恩講

11月2日・3日に亘り、報恩講が勤まりました。

今回は、福井憲雄師(新潟県・徳誓寺住職)を布教使としてお迎えし、法話をしていただきました。

私たちはこれさえ手に入れば幸せになるものを日夜求めている。手に入っても、もっと欲しいという要求が生まれたり、手に入れたものを必死に守ろうと自分の殻に閉じこもる。そのことを曇鸞大師のお言葉である、「しゃっかく 𧈧蟻循環、さんけん 蚕繭自縛」(尺取り虫のようにぐるぐる同じ所をまわり、蚕のように自らが出す糸で自らを縛り付けていく)という言葉で表され、私たちが仏法を求めていく上で、最大の難関は名利であると仰られました。

仏法に遇うということは、自分の慢心に目が覚め、名利を求めることが人間の幸せであるという思いこみの心が碎かれることである。教えが難しいのではなく、「あなた間違ってますよ」という事実で顔かせない私の思いが難しいのであると教えてくださいました。

聴聞されていた方の多くは、先生の言葉を逃すまいとメモをとっておられました。

1日目の昼前には、恒例になりつつある合唱団「エコー」の演奏会も開催されました。報恩講と同日に酉の市も開かれており、竜泉界隈が非常に賑やかな雰囲気にも包まれたように感じました。2日間で、約150名の方がお参りに来られ、1年の締めくくりとして、たくさんのご門徒さんと共に



報恩講を勤めることができました。

大勢の方のご参詣、誠にありがとうございました。

(蓮井 邦宗 記)



綺麗になった仏具で 報恩講のお勤め

10月29日、小雨の降る中、7人の方から「仏具磨き」のお手伝いをいただきました。仏具磨きのお手伝いは今回で2度目ということもあり、昨年経験された方は要領を心得ておられ、非常に手際よく作業をこなしておられました。仏具をひとつひとつ丹念に、そしてまた細部に至るまで丁寧に磨き込んでくださり、仏具もピカピカに仕上がりました。

午前中の作業が終わり、恒例になったカレーライスで昼食。皆さんに喜んでいただき、和気藹々とした雰囲気でした。

皆様のお陰により、「報恩講」はキラキラと輝く仏具をお荘厳にして、盛大にお勤めさせていただきました。ご協力、誠にありがとうございました。(木村 専正 記)

【お手伝いくださった方々】 順不同 鈴木弘子様
橋悦子様 谷口博一様 鈴木喜美江
安藤貴史様 勝見千景様 長尾将男様

生年月日は昭和54年3月5日で、現在34歳です。西徳寺には平成16年の4月に入寺し、現在は9年目になります。最初の2年間は華香所に勤め、平成18年の4月から法務員として勤めさせていただいております。

私は滋賀県の米原市の光台寺池下道場に生まれました。京都の大谷大学を卒業し一般企業に就職しましたが、自坊との兼ね合いが難しく退職することになりました。その後、本山仏光寺で1年間勤務し大谷顧問が縁となって西徳寺に勤めさせていただくことになりました。

西徳寺で勤めさせていただくようになって感じることは、改めて「お寺とは?」ということです。

お寺では様々な世代の方々とお会いする機会がありますが、世代にとらわれることなく、人と人との関係が開かれてきたのが、お寺であると思います。

というのは、仏事(法事や葬儀)を通してみますと、私達はどうしても避けることの出来ない問題(生老病死)を抱えて生きている存在だと、先立たれた方々から教えられるわけです。つまり、世代に関係なく共通の問題を抱えた者同士として、関わっていけるような場所が開かれてきたのがお寺ではないでしょうか。

そこに身を置く者として、ご門徒の皆様と共に仏事を勤められるような僧侶であり、西徳寺にしていきたいと思っております。

職員
自己
紹介
大橋 伊知郎



掲示版

平成25年12月

3日(火) 午後2時 企画委員会
8日(日) 午後2時 くまくま会
14日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 岸本住職

18日(水) 午後1時 婦人会聞法会 「釈尊伝」に聞く
19日(木) 午後1時半 「唯信鈔」に聞く(第一回)
講師 宗 正元師
21日(土) 午後1時半 定例聞法会
午後3時 評議員会定例役員会
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
31日(火) 午後3時 歳暮法要



城南ブロック会



去る10月27日(日)世田谷区「三茶しゃれなあと」に於きまして城南ブロック会聞法会が開催されました。

聞法会を開催するにあたって、「新たな参加者に来ていただきたい」という思いから、会長のご提案により会員の皆様へのお声掛けを実施致しました。

今回は3名の方に初めてご参加いただきました。初参加ということもあり、少し緊張されていたようですが、他の会員さんと話すことで笑顔が見られたように思います。

聞法会では『正信偈』の中のお言葉を取り上げ、岸本住職より法話がありました。どうか私達を救い上げたいという願いがあることを、親鸞聖人のお言葉を通して教えて下さいました。

次回は平成26年2月に聞法会を予定しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。(大橋 伊知郎 記)

奏楽堂の舞台に立ちました (合唱団「エコー」演奏会のご報告)

11月10日に合唱団「エコー」が第58回台東区合唱祭に出演し、東京藝術大学奏楽堂にて歌わせていただきました。お寺の本堂以外で歌うのは初めてで、あまりにも広いステージにどこに立ったらいいのかかわからず、団員さん共々緊張して挑みました。

聞いていただいた方は、「楽しそうに歌っていてよかったです」「結成2年目とは思えないすばらしい合唱でした」といった声を沢山いただきました。また、講評者の増田順平先生からは「色々な歌を沢山歌って下さい」、伊集院俊光先生からは「長く歌い続けられますように!」と応援をいただきました。

何もかも初めてのことでだけでしたが、とてもいい経験になりました。今後も、機会があればいろいろな場所で歌っていきたいと思います。聞いていただいた方、ありがとうございました。

(高橋 淳 記)

城東ブロック会

去る10月20日に小岩区民館に於きまして、22名参加のもと、聞法会を開催しました。新しい参加者の方も1名来られ、住職からは本願の名号、南無阿弥陀仏こそが私たちの唯一救われる教えなのだというお話を皆様と聴聞しました。

質疑の時間には、「なぜ南無阿弥陀仏と称えることが救いなのか」という法話に対するものや、写経についてなど、様々な質問が出ました。

また懇親会では会長の意見で最後にカラオケを楽しみ、参加者のみなさんと有意義な時間を過ごしました。次回は来年2月9日(日)に市川の八幡神社社務所におきまして聞法会を行う予定です。皆様お誘い合わせの上でご参加下さい。(仲井 真裕 記)

城西ブロック会



去る11月10日、中野区商工会館におきまして、参加者9名のもと聞法会が開催されました。岸本住職からは、『正信偈』には阿弥陀仏のはたらきを十二の光で表され、具体的には南無阿弥陀仏という名号によって私たちに手渡されていることをお話いただきました。

質疑の時間では参加者から、「阿弥陀様の光背(光の線)の数は何本ですか」など、ご本尊についての素朴な質問が多数ありました。日頃から疑問に感じておられたようで、住職の返答を熱心に聞いておられました。

次回は平成26年5月25日(日)、場所は中野区商工会館にて総会・聞法会を予定しております。大勢のご参加、お待ちしております。(木村 専正 記)

編集後記

今年も報恩講で合唱団「エコー」の演奏会が開かれました。報恩講での披露は2回目ですが、私も本堂で聞かせていただきました。これまで積み重ねてきた練習のたまものでしょうか、素晴らしい歌声に一同感動し、惜しみない拍手が送られていました。

これからも様々な行事で披露していただき、息の長い合唱団として活躍されることを願っております。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

saitokuji@ce.wakwak.com